

日常使いのカバンを見直す



今回は毎日持ち歩くカバンを防災仕様にする方法をお伝えします。避難袋を用意しても、その近くで被災するとは限りません。また、津波が早く到着する地域では、高台への避難が優先です。あらかじめ高台に共同備蓄や各自の避難袋を準備する所が増えていきます。火事の時、要介護者と避難するのなら、荷物は持てないかもしれません。津波同様、安全な場所に備蓄する方法も検討してみてください。

津波も火事も心配がなく、自宅が耐震化されているなら、自宅に備蓄しておけばよいことになります。備蓄とは別に避難袋を持って逃げるのはどんな場合になりそうか、イメージしてみてくださいね。

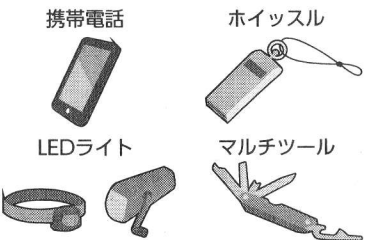
③ ふだんのカバンを防災対応にするアウトドア流テクニックは、重くならないようにすることです。具体的には、揺らさないこと、必要最小限を見極めること、日常使うものを災害時にも使えるものにする事です。

軽いカバンでも揺れると2倍重く感じます。片手がけ、肩ひもが長過ぎる、密着していない上着のポケットに荷物を入れる、どれも重たくなります。カバンを体に密着させ、揺れを抑えることで荷物は軽くなります。

毎日のカバンをリュックにしてみ

る。または折りたためるサブバッグとしてリュックを持ち歩いていけば、災害時、その中に揺れる荷物を入れられます。ストール等をカバンの上から体にまいてしまっても、揺れがなくなります。

カバンに入れておきたい必要最小限のものは五つです。1緊急地震速報を受信する携帯電話、2ホイッスル、3LEDライト、4マルチツール等のはさみ、5知恵のある自分自身。



ホイッスルは助けを求める際に使います。玉が入っていると水に濡れた時、音がでません。玉がないものを。ライトはLEDがおすすです。小さくて軽いLEDヘッドランプもあります。マルチツールは脱出や何かを作り出す時に役立ちます。

そして5、知恵のある自分自身。これは、最終回(次回)で、日常道具を災害対応用品にする方法とともにお伝えします。

子どもといっしょに 防災講座



アウトドア流
防災ファシリテーター

あんどろす